

2015年 第63代 理事長 門屋 光彦

百花繚乱 ～信頼を築けるまちの花となれ～



主な事業

松山春まつりお城まつり
愛媛マラソン支援事業
わんぱく相撲(まつやま場所・全国大会) 事業
わかつばきファンド管理・運用事業
道後温泉一番走り～湯上り頂上決戦～事業
まつやま市民シンポジウム事業
ことばを送る基金の企画・運営・実施
2020年まつやままちづくりビジョンの中間検証
有識者会議
ギネスワールドレコーズチャレンジ事業



公益社団法人松山青年会議所 2015年度理事長所信

公益社団法人松山青年会議所

門屋 光彦

我が国日本は、根源的な数多くの課題に直面している。特に、少子・高齢化に伴う人口減少、東日本大震災復興事業の遅延、家族・親族や地域社会における人間関係の希薄化は、数多くの課題の中でも喫緊の課題であるといえる。我がまち松山の根源的な課題はどうだろうか。中心市街地の活力の向上をはじめ、自然災害発生時の減災・防災に資する体制、地域資源の保全・活用による地域づくり等が挙げられる。

2014年度、松山青年会議所は63年間連綿と受け継がれてきた全国大会を主管する大きな機会を得るとともに、3万5千名にも及ぶ全国各地の会員同志から松山を多面的な角度から見ていただく機会を得ることができた。第63回全国大会松山大会で皆様方のお越しを「まっとうけん！」を合言葉に、松山に多くのメンバーをお迎えしたからこそ得られた、四国を一つとする副主管青年会議所との本気・本音の連携、そして全国大会後も加速させていきたい地域ビジョンとなる、人の意識を変え未来を切り拓く「ことばのちから」と四国のアイデンティティである癒し・いたわりの遍路文化「おせったいの心」を意識の中に呼び覚ますことができた。こうして培った青年期のかけがえのない成長とつながりと経験をもとに、まちへの誇りと信頼関係をさらに醸成させるべく、創始の精神をもって最も頼られ必要とされる青年の団体へと力強く歩みを進めていかなければならない。

「青年」それはあらゆる価値の根源である。

【はじめに】

1978年9月に松山で生まれた私は、建設業を営む門屋家の7人兄弟6女1男の末っ子長男として家族・親族に温かく見守られながら育ってきた。知人や友人から温室育ちと言われることもあったが、「踏まれても踏まれても何度でも立ち上がる雑草のように強く生きなさい」と意識の奥深く突き刺さる母からの「ことば」により、押されて倒されても何度でも立ち上がり、臆することなく逃げ出さない精神で幼少期を過ごしてきた。

少年期に入り、誰に対しても臆することなく行動できる性分が功を奏し、多くの友人とスポーツで汗を流し、大自然の中で伸び伸びと成長させてもらった。中学1年からはじめた軟式野球では、仲間を縁の下で支えるスクアラーを3年間やり遂げたことで、仲間を支え重んじる気持ちと何事に対しても継続することの大切さを学んだ。

高校では、自身の身体能力を発揮できるスポーツとして、ラグビー部に入部し、仲間とともに一丸となって前進する、「ワン・フォア・オール、オール・フォア・ワン」の精神（一人はみんなのために、みんなは一人のために）を培い、人を重んじ助け合うことがいかに大事であることを知った。そんな中、口数少ない父からの教えであった、「時間を守れ！」

「信頼を失うな！」の2つの言葉を念頭に、人と人とのつながりを認識していくのである。そして青年期を迎え、大学生活を大分県で過ごし、高知の地では建築工事の現場監督として社会人の姿勢を磨いた後、父の営む建設会社に入社した。その時、父から教えられた言葉に「人を知れ！」「愛媛を知れ！」の2つの言葉が私の意識に深く刻まれており、人と人、人と地域との間に信頼関係がいかに大切であることを認識していく。

「信頼を築くのは長く、信頼を失うのは一瞬」

これは私の座右の銘であり、何時（いつ）何時（なんどき）でも人と人、人と地域、人と建物の間には信頼関係で結ばれていなければならないことを常に念頭に入れて行動するように心掛けている。こうしたことを信念に掲げ、私は2008年5月に松山青年会議所に入会する決意をし、個人の修練、社会への奉仕、世界との友情のJ C三信条のもと、志を同じくする者と相集い力を合わせて、英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会に向けた一歩を踏み出したのである。

J C入会の目的も動機も人それぞれ。そのような点と点が交錯する中でも、各々が会社の信用や看板を背負ってJ C活動に積極的に参画することで、利害関係を越えた人と地域との「つながり」を認識するとともに、自分の内面と外見を磨きながら主体的に考え行動できるリーダーへと成長することが地域の成長、ひいては我が社の企業の発展に繋がり日本の元気に結びつくことを信じている。今、この時代を生きる青年経済人として、365日24時間1分1秒、平等に与えられた時間の中で、明るい豊かな社会の実現に向けて、心の底から誇れる価値ある時間を共に前進していこう。そして、確固として揺らぐことのない信念を抱き、説得力ある本気・本音の行動を起こしていこう。

【公益社団法人移行初年度としての姿勢】

2014年4月1日、これまでの62年間、社団法人として歩みを進めてきた歴史に幕を閉じ、新しく公益社団法人松山青年会議所として生まれ変わった。公益社団法人として社会から大きな信頼を得る代わりに、より公益性の高い事業の構築、より公益比率の高い財務体質が求められる。特に公益社団法人移行初年度の2015年度は、財政局を強化し、これまで以上に事業の予算・決算を厳しく審査していくとともに、事業の隅々まで法令違反がないか確認していきたい。そして、全体の監査についても監事を外部から招聘し、より健全性の高い組織運営を行うとともに、地域から信頼される団体として認知していただくべく、あたりまえのことをあたりまえにしっかりと行動できる姿勢で例会運営をはじめ地域ビジョンを加速させる青年の運動を推し進めていきたい。

2015年度は第63回全国大会松山大会を主管させていただいたことにより、行政・関係諸団体・企業・国際青年会議所・全国各地青年会議所との交流・連携への感謝を伝え、更なる強固な関係を築いていかなければならない。こうしたことを念頭に、お支えいただいた

恩をしっかりとお返しする為にも、愛媛ブロック・四国地区の運動運営をはじめ、2015年度第64回東北八戸大会、第69回JCI世界会議金沢大会に多くのメンバーが参画し、信頼関係を構築して歴史を紡いでいかなければならないと考えている。それだけに、青年の運動を縁の下でお支えする総務・渉外・事務局・財政局が担う役割の重要度は非常に高く、全国大会を主管した青年会議所の姿勢を存分に発揮し、今、この時代を生きる責任ある青年経済人として、地域に信頼される組織を確立していきたい。

【人と人、人と地域がつながる本気・本音の行動】

地域に最も頼られ必要とされる青年の団体として、人と人、人と地域がつながっていくには本気・本音の運動発信を行い、多くの市民をはじめ行政・関係諸団体・先輩諸兄を魅了し、琴線に触れる効果的な発信が必要不可欠である。特に、私たちの青年の運動を広く発信する広報戦略においては、日々取り組んでいる運動の情報をホームページ及びSNSを通じて公開し、地域に根差した運動を発信する必要がある。また、先輩諸兄より連綿と受け継がれてきた広報誌「わかつばき」もさらに進化させ、今の時代に即した広報誌の在り方を考え、協賛者・拝読者すべてに満足していただくことが必要である。こうしたことを踏まえ、人と人、人と地域がつながる本気・本音の運動発信を一人ひとりが主体性をもって真摯に取り組み、私たちが展開するJC運動を一人でも多くの方々に触れていただくよう、戦略的に広報活動をしていきたい。

青年が積極的な変革を創造し開拓するために、能動的に活動できる機会を多くの方々に提供していくことが私たちの使命である。その使命に基づき、長期的なスパンでJC運動を推し進めていくには、同志を増やしていくことが求められる。今日まで様々な運動・事業を通じて、次代を担う青年たちに触れていただき、松山の輝かしい未来を共に創造する同志の輪を広げていきたい。そして、先輩諸兄が築き上げてきた松山JCの歴史を絶やすことなく、次代を担うメンバーに伝えていけるよう、創造力と行動力あふれる若きリーダーの創出と育成に力を入れたい。人と人、人と地域がつながる本気・本音の行動を念頭に、一人ひとりの人間力を磨き上げるとともに、ひとつづくりが強い組織を創り、強い組織が地域にポジティブな変化を巻き起こし、さらに日本の元気につながるように、明るい豊かな社会の実現に向けて価値ある時間を共に前進していきたい。

【2020年まつやままちづくりビジョンの中間検証】

2002年に私たちの先輩は、松山に必要なまちづくりの指針として「2010年まちづくりビジョン」を策定した。まちづくりの柱として、「環境、教育、産業、歴史文化、まつり、情報、地域コミュニティ、福祉」の8つの方向性を掲げて活動してきたのである。そして私たちは、2010年に2020年に向けた10年指針として、これまで推し進めてきた8つの柱を検証・精査し、地域コミュニティ、歴史文化、ひとつづくり、地域振興の4つのビジョンからなる「2020年まつやままちづくりビジョン」を策定した。2015年度は、4つのビジョン達成のための運動・事業を展開するとともに、想定期間の折り返しとなる5年目を迎えるため、次の5年に向けた中間検証を行い、松山青年会議所の目指すまちづくりにおける役割と方向性を導いていかなければならない。特に、2014年

度第63回全国大会松山大会で推し進めてきた「ことばのちから」と「おせったいの心」を加速させていけるよう、短期アクションプラン並びに中期運動指針に盛り込んでいく必要がある。こうしたことを踏まえ、行政の掲げるまちづくり・ひとづくりの将来像との関係性を考慮しながら、行政・市民・企業・関係諸団体が一体となれる本気・本音の意見を下に、5年後に向けたブレない中期運動指針を構築していきたい。

【連綿と受け継がれた事業の進化】

松山城小天守の再建の決定を祝い、城下町（城山公園堀之内地区）で展開する昭和42年から始まった「松山春まつり（お城まつり）」や松山市の抱える問題解決に向けて市民と共に意識を醸成する「松山市民シンポジウム」の共催事業をはじめ、2012年度に松山青年会議所創立60周年を記念して開催された道後の温泉文化を発信する「道後温泉一番走り～湯上り頂上決戦～」などの多くの連綿と受け継がれてきた事業を進化させるとともに、全国大会後につながりを持てた行政・関係諸団体と連携するインパクトのある事業を引き続き展開させていきたい。また、2011年度から対象年齢の拡大に取り組み、2014年度は過去最高の参加人数を誇ったわんぱく相撲まつやま場所を、教育委員会や相撲連盟の皆様と共にさらに進化させ、松山の小学生たちに相撲を通じて心身の健全な成長を促す機会をつくっていきたい。

2015年度は、私たちにとって全国大会松山大会で培ったどんな困難にも立ち向かっていく気概と、積極果敢に挑戦するたくましさを伝えることができる、連綿と受け継がれてきた公益社団法人日本青年会議所四国地区愛媛ブロック協議会2015年度第45回愛媛ブロック大会松山大会を開催させていただく機会を得ることができた。愛媛県内各地青年会議所メンバーが一堂に会し、愛媛にポジティブな変化を巻き起こす愛媛ブロック大会松山大会を通じて、日本青年会議所が推し進める青年の運動と愛媛の魅力をも市民と共に、全国、そして国際の機会を通じて世界に発信していきたいと考えている。全国大会松山大会で得たつながりと信頼関係を大切に、愛媛県内各地青年会議所の地域ビジョンが加速することを願っている。

【百花繚乱の如く花となれ】

松山青年会議所63年目の運動を展開できることを、あたりまえではないことを深く認識し、これまで連綿と歴史を紡いでこられた先輩諸兄をはじめ全国各地青年会議所メンバーに感謝の気持ちを伝えていきたい。そして、全国大会松山大会で培ったどんな困難にも立ち向かっていく気概と、積極果敢に挑戦するたくましさを胸に、地域に最も頼られ必要とされる青年の団体として、人と人、人と地域がつながっていく本気・本音の市民運動を展開してまちとの信頼関係を築いていきたい。己を律し、友を信じ、未来を見据え、これまでしっかりと育んできたまちとの信頼関係と魅力を後世に確実に引き継ぐ為に、百花繚乱の如く、一人ひとりが個性豊かな花を咲かせ、輝かしい未来に向かって共に前進していこう。